

主題 豊かな心で主体的に活動し、よりよい生活を創り出す子供の育成
 ～特別活動と道徳科とが響き合い、子供が活躍する道徳教育の推進～

熊本市立帯山西小学校

要 約

子供が学校のキャラクター「帯西レンジャー」とともに活躍する学校を目指し、道徳科と特別活動を学校教育の基盤に据えた道徳教育の充実に取り組んだ。学校教育目標・学級目標に「4つの心」を取り入れ、全ての教育活動で子供や職員が意識して臨み、全授業を「足跡カード」として残していった。「4つの心」が子供たちの生活とともにあり、子供が自ら考え、実践し、主体的に活動する中で、自己有用感を高め、よりよい生活を創り出そうとしていくことが、本研究を通して明らかになった。

<キーワード> 帯西レンジャー 4つの心 わくわく 焦点化 共有化

1 主題設定の理由

(1) 今日の課題から





グローバル化の進展や絶え間ない技術革新、予期せぬ自然災害、国際情勢の不安などにより、世界が急速に変化する中であって、未来は不透明で、予測することが困難になってきた。このような時代にあって、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い他者と協働して課題を解決し持続可能な社会の創り手となっていくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。OECD（経済協力開発機構）これからの時代に必要な力として、①新たな価値を創造する力、②対立やジレンマを克服する力、③責任ある行動をとる力の3つを設定している。これらは、活動の目標の達成のために、方法や手段などを全員で考え、折り合いをつけながら話し合い、自分の役割や責任を果たすとともに、それを協力して実践し、さらには学級文化を創造していく本校の道徳教育の在り方と軌を一にしている。

(2) 学校教育目標の具現化のために

【学校教育目標】 豊かな心で主体的に活動し、みんなが「わくわく」する学校創り
 ～子供たちが帯西レンジャーと共に活躍する学校～

生誕22年の学校のマスコットキャラクター「帯西レンジャー」に、道徳の4つの視点を表1のように意味付け、本校の教育目標の具現化を図るために、道徳と特別活動の充実に取り組む。

【表1 帯西レンジャーに意味付けした「4つの心」】

<p>A:主として自分自身に関すること</p>  <p>自分を育てる心</p>	<p>B:主として人との関わりに関すること</p>  <p>ともに生きる心</p>	<p>C:主として集団や社会との関わりに関すること</p>  <p>社会をつくる心</p>	<p>D:主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</p>  <p>命を感じる心</p>
---	---	--	--

さらに、「4つの心」を生かしつつ、道徳科の内容項目をパズルのピースに置き換えて示した、「心のパズル」の活用を図っていく。「心のパズル」（次頁図1）は、4つの視点をA⇒B⇒C⇒Dの順に同心円状で表し、小学校低・中・高学年から、中学校まで、系統性を踏まえている。例えば「A：主として自分自身に関すること」の「善悪の判断、自律、自由と責任」の内容項目を表すピ

ースは、小学校低学年では「よいことわるいこと」、中学年では「正しいことを自信をもって」、高学年では「しっかり考えて責任ある行動を」、中学校では「自ら判断・行動し結果に責任をもつ」とし、子供たちが口ずさみやすいように表記している。令和5年度は、さらに実物のパズルを作成し、各教室に設置して活用を図っていた。また、一つ一つのピースを取り外して活用できる掲示用のピースも作成した。



【図1 心のパズル (中学年用)】

(3) これまでの研究の歩みから

令和2・3年度、学級活動内容(1)を中心に研究を進めてきた。令和4年度からは、学級活動内容(2)(3)と、特別の教科 道徳(以下、道徳科)を加え、教育活動全体を通して道徳教育に取り組んだ。実践を通して、多くの職員が学級活動と道徳科の基本的な指導方法を学び、自主的、実践的な活動を展開していくために重要なポイントを共通理解しながら、次の実践につなげてきた。子供も学級や委員会活動の中で様々なイベントを開催したり、課題を解決したりすることに意欲的に取り組んでいた。令和5年度は、令和4年度の研究を継続し、さらに深化させていくことで、学校教育目標に近付いていけるよう、本研究主題を設定した。

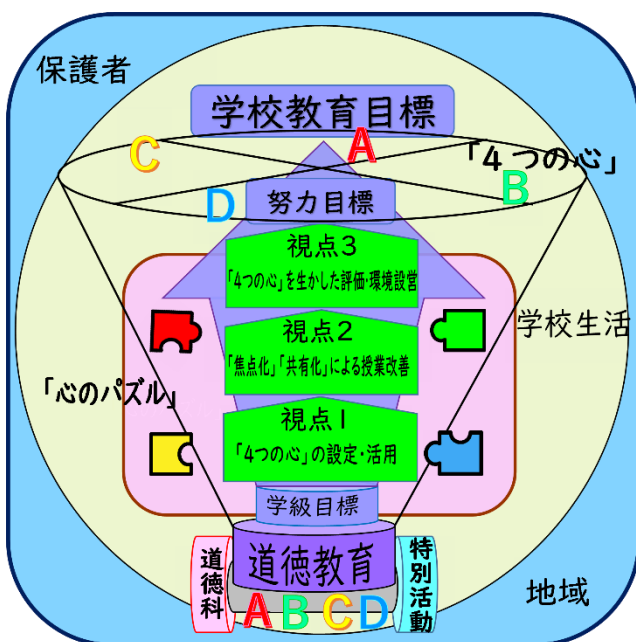
2 研究の仮説

「4つの心」(道徳科の4つの視点)を評価ツールとして活用しながら、道徳科と特別活動を中心に、全ての教育活動において道徳教育の推進及び充実を図れば、子供は自分や友達の行いを「4つの心」で価値付けたり、振り返ったりする力が伸び、自己有用感を高めながら自分の成長を実感することができ、研究主題に迫ることができるであろう。

3 研究の視点

研究の構想図を図2に示し、研究の視点を表2に示す。

【表2 研究の視点】



【図2 研究の構想図】

- 【視点1】「4つの心」の設定・活用**
- ①道徳科の4つの視点を取り入れた学校努力目標の設定
 - ②「4つの心」の設定
 - ③「4つの心」を生かした学級目標の設定・活用
- 【視点2】「焦点化」「共有化」による授業改善**
- ①道徳的価値の自覚を深めるための焦点化と共有化による道徳科の授業改善
 - ②合意形成を図るための焦点化と共有化による学級活動内容(1)の授業改善
 - ③意思決定を図るための焦点化と共有化による学級活動内容(2)(3)の授業改善
- 【視点3】「4つの心」を生かした評価・環境設営**
- ①子供が自らの成長を実感するための「4つの心」を生かした評価の工夫
 - ②「4つの心」を生かした環境設営

研究の視点2の各教科における「焦点化」「共有化」とは、表3のとおりである。

【表3 道徳科と特別活動における「焦点化」「共有化」】

	焦点化・・・8割は「準備」で決まる	共有化
道徳科	教師が児童にどのようなことに気付いてほしいのか、教師の指導の意図を明確にし、教材文を通してそこに近付くこと。	「気付かせたい心」を児童の言葉で整理し、学級全体で共有することであり、共有したことを一人一人が自分自身を見つめる窓口とすること。
学級活動	計画委員会の話し合いを通して、提案理由における最も重要な点を明らかにし、話し合いを通してそこに近付くこと。	焦点化されたものを、教師あるいは児童の言葉で表現し、学級全員で共有することであり、それを生かして、意見を「比べ合う」根拠とすること。

4 研究の実際

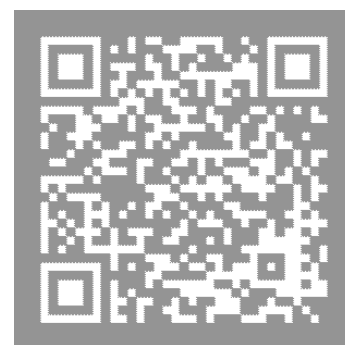
(1) 研究の【視点1】について

①道徳の4つの視点を取り入れた学校努力目標の設定

学校教育目標から下ろした、学校努力目標「目標を持って努力し、仲間とともに高め合い、みんなのために進んで働き、よりよく生きていこうとする子供の育成」は、道徳の4つの視点から考えられている。このことにより、道徳教育の推進が、学校努力目標の実現に向かい、ひいては学校教育目標の具現化につながることを目指した。

②「4つの心」の設定

1頁の表1で示すように、本校のマスコットキャラクター「帯西レンジャー」に道徳科の4つの視点を「4つの心」として意味付けした。そうすることで、学校教育のあらゆる場面で「4つの心」を意識し、教師が子供を、または子供同士が、分かりやすく評価（価値付け）することができるようにした。また、図3のQRコードから閲覧できる学校便りをホームページで配信したり学校評議員会や地域行事で説明したり、「4つの心」の浸透を図っている。



【図3 学校便り】

③「4つの心」を活かした学級目標の設定・活用

集団として高め合い一人一人の力を伸ばすための学級目標（図4）に「4つの心」を取り入れることで、全ての学級が学校教育目標の具現化に向けて取り組むことができるようにした。また、それぞれの学級目標を基に、子供が各自で個人目標を決め、全ての学校生活において意識することで、常に「帯西レンジャー」を拠り所として活動を振り返るようにした。さらに、学級目標を基に「学級の歌」を作成し、朝の会や学級会で歌うようにした。こうすることで、反省と改善を繰り返し、どの視点が伸びたのか成長を実感したり、役割意識や自己有用感を高めたりすることができるようにした。



【図4 学級目標の一部】

(2) 研究の【視点2】【視点3】について

①道徳科の授業改善と評価の工夫

ア 4年生検証授業

a 主題，教材，ねらい


主題名：友達のことを考えて【B 友情，信頼】令和5年6月15日実施

教材名：「絵はがきと切手」（日本文教出版 小学どうとく 生きる力 4）

ねらい：ひろ子の迷った末に料金不足のことを伝えることを決めた理由を考えることを通して、たとえ言いにくいことであっても友達のためになるなら伝えることが大切であることに気づき、友達のことを考え、信頼し、助け合おうとする態度を養う。

b 道徳的価値の自覚を深める授業の概略（表4）

【表4 道徳的価値の自覚を深める授業の概略】

<p>【価値の方向付け】 T：「卓球は四人まで」では、友達を大切にするために、「友達のことを考える」ことが大事だと考えましたね。今日は「友達のことを考える」とはどういうことなのか見つめていきましょう。</p> <p>【焦点化】（※気付かせたい心） T：母と兄の考えを聞いて迷ったけれども、それでも伝えてあげようとしたのはなぜでしょう。 C：仲良しだから言えたのだと思う。 T：「仲良し」なら誰にでも言える？ C：自分のことを思って言ってくれたって分かってくれる人。</p> <p>【共有化】（※気付かせたい心→自分自身を見つめる） T：友達のことを考えるとどういうことだろう？ C：友達のためになることかどうか考えること。今だけでなくこれから先のことも考えて。 C：思いやりの心をもって友達に接すること。 T：「友情・信頼」の心は「思いやり」や「相手の考えを大切にする心」とつながっていますね。</p>	
--	--

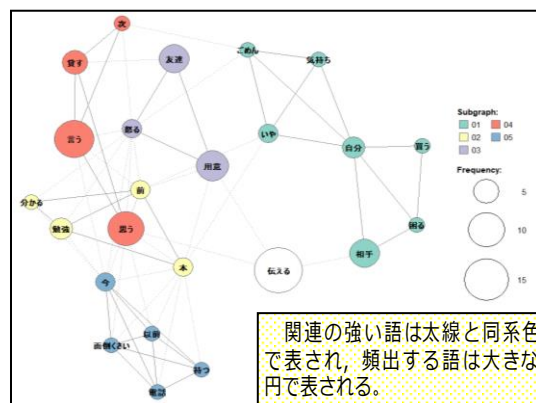
c 子供の変容

共有化の場面では、ワークシートにこれから自分が友達との関係に生かしていきたいことを書いた。子供たちの感想の一部を表5に示す。

【表5 子供たちの感想】

今まで友達よりも自分のことを考えていたと思います。これからは友達が嫌な気持ちにならないように気を付けて、自分のことよりも友達のことをよく考えようと思います。／この言葉の言っても嫌な気持ちがしないか、友達の気持ちを考えてから行動しようと思います。／正しいと思ったことは、友達のためにも自分が損しないためにもすごく大切なのできちんと伝えたいと思います。

子供たちの感想をテキストマイニングソフトで分析したものが図5である。図の「次一貸す一言一思う」からは、「次の日に相手のことを考えて、貸すものを準備したり、もう一度電話で行ったりすると思う」と次の日の相手の状況を考えて、自分にできることを考え出そうとする子供たちの意識が読み取れる。また、「思う一用意一相手一伝える」からは、「相手に伝えた方が、用意する



【図5 ワークシートを分析した子供の意識】

よりも」と2つの手段を比較し、どちらの方が相手にとっても自分にとってもよいか考えている様子が窺える。

これは、教師が「気付かせたい心」として焦点化した「言いにくいことであっても、友達のためになるなら伝えることが大切」という価値に子供自身が気付き、これまでの自分を一人一人がしっかり振り返ったからであると思われる。

イ 5年生検証授業

a 主題, 教材, ねらい

主題名：正義の実現【D 公正, 公平, 社会正義】11/16実施

教材名：「名前のない手紙」（日本文教出版 小学道徳 生きる力 5）

ねらい：手紙に名前がない理由を考えることを通して、いじめを止めたい気持ちと、自分を守りたい気持ちのそのどちらも正しく、誰しものが持つ感情であるが、一人が公正、公平な態度で行動すると周りも動かすことができることに気付かせ、勇気を持って正しい行動をしようとする態度を育てる。

b 道徳的価値の自覚を深める授業の概略（表6）

【表6 道徳的価値の自覚を深める授業の概略】

【価値の方向付け】

T：今日は「正義の実現」について考えていきます。正義とは何だと思えますか？

C：困った人を助けること。

C：人を守って優しくできる人。

C：当たり前のことのできる人。

【焦点化】（※気付かせたい心）

T：手紙に名前がないのはどうしてだと思いますか？

C：自分ものけものにされる。

C：みんなの気持ちを代表していることを伝えたい。

C：一人だと不安。

【焦点化】（※気付かせたい心）

T：みんなが「わたし」の立場だとして、手紙をもらったらどんな気持ちになりますか？

C：うれしい。

C：ちょっとだけ明るい気持ちになれる。

C：あんまりうれしくない。

T：どうしてそう思うの？

C：現状は変わってなくて、いじめは続いているから。

【共有化】（※気付かせたい心→自分自身を見つめる）

T：本当に手紙は正義といえると思えますか？

C：言えないかもしれない。

C：いじめを止めてほしい。

C：直接言ってほしい。

T：正義を実現するために自分にはどんなことができると思えますか？

C：自分一人では難しいけど、先生に言ったり、友達と協力したりして止めたい。

C：いじめられている人の気持ちを考えて、その気持ちに寄り添っていききたい。



c 子供の変容

共有化の場面では、ワークシートに「正義を実現するために自分にできること」を書いた。

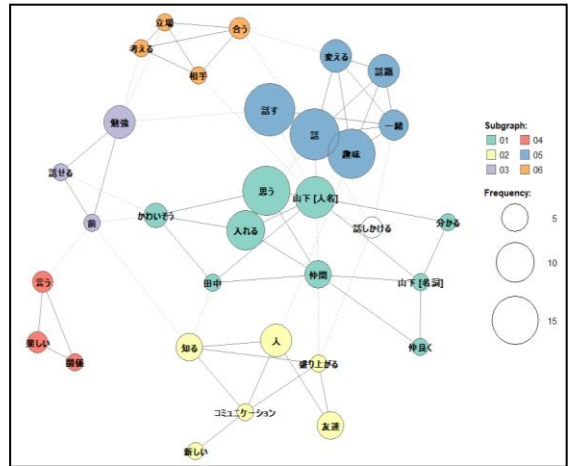
子供たちの感想の一部を表7に示す。

【表7 子供たちの感想】

いじめが起きている場合だけ力になるのではなく、日頃でも声を掛け合うとか、ちょっとしたことで心の力になることが大切だと思った。／正義があっても伝えられなかったり、行動に移せなかったりしたらそれは正義といえないと思う。／相手の気持ちにどれくらい寄り添えるか、どれくらい辛い思いをしているのか考えてから行動したいと思った。

それを分析したものが図6である。図からは、「これまでの自分」と「これからの自分を」、誰から話しかけられても仲間に入れるか、ということで「公正・公平」に接する心で見つめていることが伺える。「話すー趣味ー一緒ー話題」からは共通の話題を見つけて、いろいろな人と話そうとする自分が読み取れる。「人ー知るーコミュニケーションー新しい」からはあまり話したことの少ない人に対して、心の壁が少なからずあるが、新しい友達とのコミュニケーションを通して、相手を知ろうとしていることが窺える。

これは気付かせたい心として教師が焦点化した「葛藤を抱きながらも、公正・公平に行動することで、周りの行動も変えることができる。」という価値に子供自身が気付き、これまでの自分を一人一人が振り返ったからであると思われる。



【図6 ワークシートを分析した子供の意識】

ウ 6年生検証授業

a 主題，教材，ねらい

主題名：ほんとうの友達【B 友情，信頼】11/13 実施

教材名：「ロレンゾの友達」（日本文教出版）

ねらい：三人のそれぞれの対応の在り方や考え方について，共通している点や足りない点を考える活動を通して，よりよい友達関係を構築するためには，難しいことだが信じることや思いやることが大切であることに気付き，自分もこれから互いに信頼し，友情を深めていこうとする心情を育てる。

b 道徳的価値の自覚を深める授業の概略（表8）

【表8 道徳的価値の自覚を深める授業の概略】

【価値の方向付け】

T：みなさんにとって「友達」とはどんな人ですか。

C：一緒に遊ぶ人，相談できる人，頼りになる人。

T：それでは，みなさんは「ほんとうの友達」って考えたことはありますか。

C：（「うーん」と考え込む。）

T：今日は，「ほんとうの友達とは」について考えていきましょう。

【焦点化】（※気付かせたい心）

T：三人は，無実と分かったロレンゾに，かしの木の下で話し合ったことをなぜ，言わなかったのだろう。

C：ロレンゾを悪い人にしてたから。

T：もし，ロレンゾが話を聞いていたらどんな気持ちだっただろう。

C：親友だと思っていたのに疑われていた。ロレンゾより噂を信じた。

【共有化】（※気付かせたい心→自分自身を見つめる）

T：「ほんとうの友達とは」どんな関係だろう。

C：お互いに信じ合える関係。

C：お互いに考え協力し合い，助け合う関係。

C：悪いことは悪いと言い合える関係。

T：「ほんとうの友達とは」の心は，「広い心でわかり合う」や「公平・公正な態度で」の心とつながっていますね。



c 子供の変容

共有化の場面では，ワークシートに「今の自分」の思いを書いた。子供たちの感想の一部

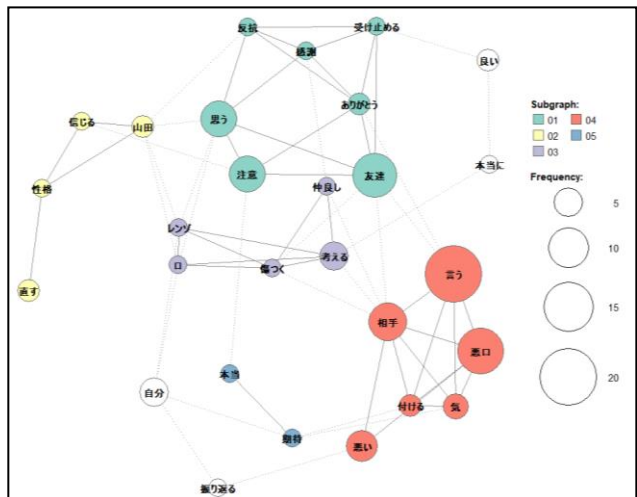
を表9に示す。

【表9 子供たちの感想】

今まで、100%友達を信じずに疑ってしまうことがよくありました。でも、今日の授業で信じ合うことができていると、それは本当の友達でないということが分かりました。まず友達を信頼しようと思いました。／自分は、まだ本当の友達になれていないと思います。友達が悪いことをして注意をしたら怒るんじゃないかと心配です。友達を信じることは難しいですが、そんな友達関係を作りたいです。

それを分析したものが図7である。図からは、「相手」と「友達」を意識していることが窺える。「友達－注意－思う」からは、友達が自分のことを思って注意してくれたことに気付けたことが読み取れる。

これは、教師が「気付かせたい心」として「焦点化」した「信頼する心」が大切であるという価値に子供自身が気付いた結果であると思われる。



【図7 ワークシートを分析した子供の意識】

②学級活動の授業改善と評価の工夫

ア 3年生検証授業

a 題材、題材の目標

題材：「家庭学習をスキルアップして、将来のなりたい自分に近付こう」

学級活動 内容（3）令和5年7月10日実施

題材の目標：○家庭学習の意義や大切さについて考えることで、今の自分の課題を知ることができる。

○現在の学習が将来につながることを理解し、これからの家庭学習へ生かそうとすることができる。

b 意思決定に至る授業の概略（表10）

【表10 意思決定に至る授業の概略】

【焦点化】

家庭学習に取り組む自分と、その姿を見ている保護者との意識のずれから、課題に気付く。

T：「家庭学習に取り組んでいる自分」と「その姿を見ているおうちの人」のアンケート結果を比べて、どんなことに気付きましたか。

C：自分が感じているより、集中して勉強している時間が少ないね。

C：何を書くか悩んだり、集中が続かなかったりするんだな。

【共有化】

T：「家庭学習をスキルアップするためのコツ」を見つけましょう。

- ①グループで話し合ったり、6年生の自学ノートをヒントにしたりして、コツを見つける。
- ②全体で共有する。



○めあてを決定する。

C：集中するために、時間を計ってする。

C：間違えた問題やテストのやり直しをする。

C：色を使ったり、吹き出しを使ったりする。

C：家に帰ったら、すぐに取り掛かる。

※めあてを友達と共有し、より具体的なめあてになるようアドバイスを送り合う。

【表 1 1 実施後の振り返り】

c 子供の変容

子供たちは、決めたことを1週間実践し、自分の取り組みについて振り返った。実施後の振り返り(表1 1)から、「最初に比べると、隙間なくページを埋められるようになって嬉しい。」「帰宅してからすぐに勉強に取り掛かると、集中できるし後が楽だと気付いた。」と、めあてを意識した行動ができたことが分かる。

実践後に、質問紙を使って子供たちの変容を分析したものが表1 2である。この変容を

受けて、子供たちになぜこのような力が付いたのかを問い、変容の理由をまとめたものが表1

3である。変容の理由にもあるように、子供たちは、自分たちの実践にしっかりと手応えを感じ、実感を伴った感想を持っていることが窺える。授業の話合いの中で、保護者から見た自分と自分から見た自分とのずれを比べて「焦点化」し、家庭学習をスキルアップするコツを

「共有化」したことで、子供たちも自分を見つめた行動目標を設定できたからであると思われる。また、「焦点化」「共有化」した自分の目標に向けて、現在でも意識を持って行動している。学級全体として、家庭学習により前向きになった。自学ノートの内容の充実度が増している。自分の頑張りだけでなく、友達の自学ノートを見て、「前よりよくなっている」と相互に認め合い高め合っている様子が窺える。

「家庭学習は、自分のためになっている。」の伸びた理由
授業が前よりもっと分かるようになったから。/前に比べて、勉強が好きになったと思うから。

「自学で何を書こうか、悩むことがある。」が減った理由
プリントを貼っていいと知れたから。/6年生の自学を見て、授業の復習や日記をすればいいと分かったから。/自学が好きになって、やる気が出たから。

「家庭学習がスキルアップできた。」と答えた理由
色の使い方やノートのまとめ方が上手になったと思うから。/自学ノートのすきまが少なくなって、前より頑張っているから。/友達やおうちの人から「この自学いいね」と褒められるようになったから。/前はしていなかった調べ学習をするようになって、ものしりになったから。

【表 1 2 実践後の意識の変容 (N=25 4件法)】

設問項目	授業前	授業後	有意確率
① 学級の人の役に立とうと思っ て、行動することがある	2.92 (0.48)	3.72 (0.45)	**p<0.01
② 友達の意見と自分の考えを比べなが ら、よりよい意見を考えている	2.64 (0.74)	3.60 (0.49)	**p<0.01
③ 活動を振り返る時には『4つの 心』のどこが伸びたかを考えている	2.84 (0.92)	3.64 (0.48)	**p<0.01

カッコ内は標準偏差

【表 1 3 変容の理由】

「友達の意見と自分の考えを比べながら、よりよい意見を考えている。」の伸びた理由

今までは、ただ「同じです」「違います」と発言をしているだけだったけど、今は、「少し似ています」「付け加えがあります」と発言が多くなったから。/友達の話聞くことを意識し始めたから。/友達の意見を詳しく知りたくなったから。/友達の意見を聞いていたら、その意見に付け加えて発表したり、その意見に少し似ている意見が頭に浮かんだりして、よりよい意見ができると思うから。

イ 2年生検証授業

a 題材、題材の目標

題材：「音楽会に向けて自分を高めよう」学級活動 内容(3) 令和5年10月23日実施

題材の目標：校内音楽会に向け、目標とする自分の姿に向かって努力しようとする気持ちを高め、自分に合っためあては何かを考えることを通して、学級目標達成に向けた個人のめあてを立て、友達と支え合ってそのめあてを実践することができる。

【焦点化】

学級目標の「4つの心」から、音楽会に向けた友達の頑張る姿を6つの観点で見付けるシートを用意し、授業までの1週間、子供たちは友達の姿を見つめていた。

T：もうすぐ音楽会ですね。楽しみですか。

C：はい！

【表 1 4 意思決定に至る授業の概略】

T : アンケート結果では、ほとんどの人 (20/23 人) が音楽会に向けて頑張っていると答えていました。では、音楽会に向けて不安なことがあると答えた人は、どれくらいいると思いますか。
 C : どうだろう。そんなに多くはないんじゃないかな。
 T : 実は、19人でした。みんな頑張っているけど、まだまだ不安なことがあるんですね。
 C : 音楽会に向けて、もっと学級目標に近付きたい。
 T : 今日は、音楽会に向けて、パワーアップした自分になるためのめあてを考えていきましょう。



【共有化①】

T : 音楽会に向けて、自分の頑張っているところを友達に聞いてみましょう。
 C : 私は、友達が見付けてくれた「帯西グリーン」の「友達と仲良く助け合って練習する人」をもっと伸ばしたい。

【共有化②】

T : 音楽会に向けて、どんな風に頑張ることができるか話し合ってみましょう。
 C : ○○さんの「友達と仲良く助け合って練習する人」は、昼休みに友達と一緒に練習したり、教え合ったりすると、いいんじゃないかな。

○意思決定の場面

C : 昼休みに友達と一緒に10分間練習する。友達が分からないところは、教えてあげる。
 C : ○○さんの帯西レッドの心「失敗してもくよくよせず、笑顔を3回作って頑張る。」がよかった。

b 意思決定に至る授業の概略 (表 1 4)

c 子供の変容

子供たちは、一人一人決めたことを一週間実践した。振り返りシート (表 1 5) から、子供たちは、めあてを意識した行動をしていく中で、「4 つの心」が伸びたことを実感していた。実践後に、帯西質問紙を使って子供たちの変容を分析したものが、表 1 6 である。この変容を受けて、子供たちになぜこのような力が付いたのかを問い、変容の理由をまとめたものが表 1 7 である。変容の理由にもあるように、子供たちは、自分たちの実践にしっかりとした手応えを感じ、実感を伴った感想を持っていることが窺える。授業の中で、今の自分は、音楽会に向けて練習を頑張っていて、楽しみであるという気持ちの反面、まだ不安なことがあるという実態に気付いていった (焦点化)。そして、自分の頑張りを友達に伝えてもらう中で、もっと伸ばしたい心に気付き、音楽会に向けた自分の課題の解決方法を小集団で考え、それを学級全体へと共有することで、具体的な行動目標を意思決定することができたからだと思われる。

【表 1 5 振り返りシートより】

友達と仲良く練習して、本番も頑張ろうという気持ちになったから、「帯西グリーン」の心が伸びた。/○○さんに弾き方を教えて、弾けるようになってくれて、○○さんと自分も嬉しい気持ちになった。また、誰かに教えてあげたいと思った。/練習のとき、失敗してもくよくよせず笑顔で頑張ることができたから、本番で間違ったときも、くよくよしなかったからよかった。

【表 1 6 実践後の意識の変容 (N=23 4 件法)】

設問項目	授業前	授業後	有意確率
①進んで自分の意見を言う。	2.30 (0.80)	3.57 (0.58)	**p<0.01
②活動を振り返る時「4つの心」のどこが伸びたかを考えている。	2.61 (1.13)	3.78 (0.41)	**p<0.01

カッコ内は標準偏差

【表 1 7 変容の理由】

「進んで自分の意見が言える。」の伸びた理由

めあてを立てたので、そのめあてに向かってやるべきことを頑張る気持ちで発表をしているから。/手を挙げて発表してみたら、だんだん自分に自信がついてきて、どんどん発表したくなったから。/授業で、友達の意見を聞いて、みんなの考えを知るのが好きになって、自分の意見も進んで発表したいと思うようになったから。

「活動を振り返る時には、『4つの心』のどこが伸びたかを考えている。」の伸びた理由

「4つの心」のどこが伸びたかを考えると、私のそんな心が伸びたんだなと気付いて嬉しくなるからしっかり考えるようになった。/帰りの会の中で、めあての振り返りをしていて、今日はこの心がどれくらい伸びたかを色で見ながらいつも考えているから。/グリーンをめあてを立てて、一週間取り組んだら、友達と仲良くなって、学校生活が楽しくなって、イエローの心も伸びたということが分かったから。

ウ 1年生検証授業

a 題材、題材の目標

題材：「きらきらるーう集会をしよう」学級活動 内容（1）令和5年11月20日実施

題材の目標：○友達のを考えを最後まで聞き、提案理由に沿った意見を出すことができる。

○提案理由に近付けるような集会活動の内容を決めることができる。

○決まったことをみんなで助け合って遊び、学級目標に近づくことができる。

b 合意形成に至る授業の概略（表18）

【表18 合意形成に至る授業の概略】

提案理由：今まで運動会や音楽会など、みんなで助け合って頑張ってきました。しかし、困っている人がいるのに気付かなかったり、助けようとしなかつたりすることがあります。そこで、「きらきらるーう集会」をすることで、みんなが助け合って楽しくなり、学級目標の「ちからをあわせて」にもっと近付けると思うからです。

【焦点化】

T：提案理由の「みんなで助け合って楽しくなる」に近付ける遊びを選びましょう。

【共有化】

T：音楽会、みんなで助け合って練習した人は手を挙げましょう。

※音楽会の動画を見せる。

C：はい。

T：みんなで助け合って練習して、楽しかったですか。

C：はい。楽しかったです。

T：みんなで助け合うと、楽しいですね。

○意見を出し合い・比べ合う場面

※始めに司会グループが提案理由に沿って絞り込んだ遊び3個の原案を示す。

C：「つみきタワー」がいいと思います。わけは、壊れてもまた作り直して楽しいからです。

C：「ひぎのいすとりゲーム」がいいと思います。わけは、みんなで助け合えて、楽しいからです。

C：「ひらがなであそぼう」がいいと思います。わけは、3人で力を合わせてできるからです。

※「ひぎのいすとりゲーム」に決定



c 子供の変容

子供たちは、決めたことに向かって、一人一人が自分の役割を責任を持って果たそうとしていた。そして、「きらきらるーう集会」（図8）を実践した後の振り返りでは、互いの頑張りやよさを認め合うことができた。

【表19 実践後の意識の変容（N=34 4件法）】

実践後に、帯西質問紙を使って、子供たちの変容を分析したものが、表19である。この変容を受けて、子供たちにな

設問項目	授業前	授業後	有意確率
① 学級の人の役に立とうと思っ、行動することがある	2.62 (0.84)	3.50 (0.61)	**p<0.01

ぜこのような力が付いたのかを問い、変

容の理由をまとめたものが次頁の表20である。変容の理由にもあるように、子供たちは、自分たちの実践にしっかりと手応えを感じ、実感を伴った感想を持っていることが窺える。授業の中で提案理由を「みんなで助け合って楽しく」と「焦点化」し、

「みんなで助け合って楽しく」とはどんな様子なのかと

【図8 きらきらるーう集会の様子】

カッコ内は標準偏差



「共有化」したことで、子供たちも提案理由に立ち返り意見を比べ合うことができた。普段の学習の中でも、友達の見解に反応したり納得したり、「〇〇さんの意見と少し似ています。」「〇〇さんに付け加えがあります。」等と意見を比べ合いながら発言することが増えてきた。また、集会での一人一役の役割を果たすことで、それが大きな自信につながり、当番活動や係活動への取組も活発になってきた。「きらきらるーう集会」をしたことで、友達との仲がさらに深まり、みんなが「助け合って楽しく」の姿になるように、「友達が困っていたら、助けたい。」「みんなのために役に立つことをしたい。」という雰囲気が醸成されてきた。

当初は、友達に興味関心が無い子供や自分のことしか見えない子供が多かったが、周りが見える子供が増えてきたことで、友達を助けたり自分にできることをしたり等、助け合う場面を多く目にするようになった。 【表20 変容の理由】

「学級の人の役に立とうと思って、行動することがある。」の伸びた理由

みんなのことを考えて行動できるようになったから。／一人一人がみんなのために行動しなかったら、みんなが困るから。／みんなが頑張ってくれるから、みんなの役に立ちたいと思うようになったから。／学級目標の「力を合わせて」に近付けるから。／みんなが力を合わせられるようになったから。／みんなが嬉しくなって、楽しいクラスになるから。／みんなが笑顔になったら、もっと頑張りたいから。

(3) 研究の【視点3】について

①「心のパズル」のピースについて

道徳科では、図9のように実際のピースを黒板に掲示し、授業内で扱う内容項目を視覚化した。授業の導入時等にピースを掲示することにより、どの内容項目を中心に考えていくのか、児童が見通しを立てられるようにすることをねらった。その結果、子供たちは自ら内容項目を意識し、その視点をもって自分の生活を見直す姿が多く見られるようになった。また、実際のパズルをプラスチック製で作製し、子供たちが実際に動かし（図10）、同心円状に広がる道徳の内容項目が浸透していくことをねらった。道徳の内容項目の文言が身近なものになり、子供たちはその視点で日常生活を見つめることが増えたと感じる。



【図9 ピースの掲示例】



【図10 実際のパズル】

②児童会目標・委員会

児童会目標は、学級目標と同様、「4つの心」を視点として作り上げた。企画委員会で、「4つの心」にそれぞれどんな言葉を入れたいか、全校に呼びかけを行った。児童会室の黒板を4つに分け、付箋に子供たちのどんな学校を目指したいかというアイデアを書いて貼る方法をとった。募集期間には、昼休みにたくさんの児童が集まりアイデアを出し合った。企画委員会でその言葉を整理し、比べ合いながら最終的に児童会目標を決めた。「高みをめざして／それぞれを認め合い／役割を果たす／わくわくする帯山西小学校」に決定し、帯西レンジャーとともに運動会で発表した。運動会後には、この児童会目標を基に自分を振り返り、自らの成長を実感することができた。

委員会活動は、10の委員会を編成し、5、6年生の児童がそれぞれ20人前後で活動している。月に1回の委員会活動の時間だけでなく、毎週火曜日の朝自習は委員会の日として活動の時間を設けている。また、月に1回、校長室で委員長会議を開き、活動報告や来月のイベントを提案し、それぞれの委員会が見通しをもって活動できるようにした。

③代表委員会

学校生活の充実と向上を図るため、学校生活に関する様々な問題について話し合っている。企画委員会で議題を決め、それを「代表委員会だより」を通して全校に知らせ、各学級で議題について話し合う。各学級で話し合ったことは企画委員会で集約し、代表委員会につなげた。参加者は司会グループを務める企画委員と各委員長、4年生以上の学級代表2人を基本とし、決まったことは「代表委員会だより」で周知し実践する。2学期には話し合いの末、「全校かくれんぼ」を実施した。実施後、「楽しかった。たてわり班でのイベントをまたしたい。」との子供たちの声上がり、3学期には「たてわり班イベントパート2をしよう」という議題で代表委員会を開いた。このときは体育館で全校児童が参加する「全校代表委員会」(図11)を採用した。フロアで見ている子供たちも、上級生の司会の進め方や意見の出し方を見て学ぶことができ有意義な時間となった。また、全員参加型にしたことで、決まった遊びを実践する際に「誰かが話し合った遊び」ではなく、「みんなが参加した代表委員会で話し合っただけでなく、イベントの企画・運営に携わった企画委員からも「盛り上げることができてよかった。」と充実した声上がり、よりよい生活を創り出す全校での集会活動の意義を感じた。



【図11 全校代表委員会の様子】

④いきいきタイム (集会)

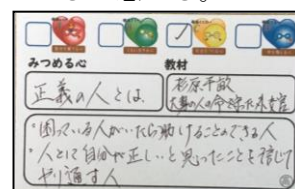
月に2～3回開かれる「いきいき集会」は、企画委員会を中心に、子供が主体となって、司会や始めの言葉、誘導、インタビュアーなどの役割を運営している。集会の内容は各委員会の取り組みや今後の予定をクイズや寸劇を交えながら周知するほか、6年生が修学旅行で学んだことを伝える等、各学年からの発表もある。また、集会の終盤には発表を聞いていた子供たちによる感想交流が行われる。そこではインタビュアーから感想を求められた子供たちが『帯西レッド』の心が伸びました。わけは生活委員会の発表を聞いて挨拶の大切さが分かったからです。」等と、集会で「4つの心」の何が伸びたのかを振り返る。さらにその言葉を受けてインタビュアーは「確かにクイズもあり分かりやすい発表でしたね。」等、言葉を返す。このように「いきいき集会」は、発表する側や発表を聞く側、運営する側、みんながわくわくし、成長を実感する場となった。

⑤わくわくタイム (たてわり班)

わくわくタイムには、2つの目的がある。1つ目は、異学年交流を通して、相手を思いやり、親切にする心の育成である。上級生は下級生が楽しく活動できるように、遊びのルールを工夫したり、優しく寄り添い声をかけたりする。特に1年生はその優しさに安心を覚え、初めての活動へも戸惑いなく参加することができている。また、令和5年度からは新たな取組として、運動会でたてわり班競技を行った。チームでバトンを繋いでいく姿からは、仲間を思う気持ちが感じられた。2つ目は、自主的・自発的な活動をしようとする子供の育成である。活動の中心は子供たちであり、子供たち自身で活動内容を決める。活動を重ねていくことで、これまでの経験を基に遊びを考えるだけでなく、身の回りの物を使いながら新たな遊びを考え出す姿も見られた。わくわくタイムは、子供たちが方法や手段などを全員で考え、折り合いをつけながら話し合い、自分の役割や責任を果たすとともに、それを協力して実践し、よりよい生活を創造していく場になっていると感じる。

⑥足跡カード

学びの可視化を行うため、授業ごとに足跡カード(図12)を残した。



【図12 足跡カード】

足跡カードは、教室の廊下側の扉に掲示スペースを設け、名刺サイズのカードを差し込んでいく形にした。道徳は、「主題名（みつめる心）」「教材名」と、主題について考え、「子供の言葉でまとめたこと」を記入した。学級活動内容（1）は学級会の議題、決まったことを書き、内容（2）（3）については、題材、決まったことを記入した。道徳、特別活動とも「4つの心」の中でどの心を中心に扱ったのかを書くようにした。図13のように廊下に掲示された足跡カードを眺めながら、学習したことを振り返っている子供の様子が見られた。学級によっては、児童が自ら授業を振り返り記入する言葉を考えて書くことができていた。可視化することでいつでも振り返ることができるし、改めて考え直すきっかけづくりにもなることが分かった。



【図13 足跡カードの掲示】

⑦ 日常の中で

ア 運動会

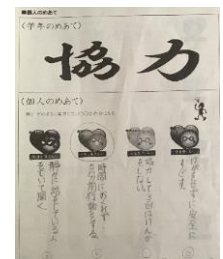
運動会では、学級目標を基に個人のめあてを立て、そのめあてを意識して練習から本番まで取り組んだ。運動会当日には学級旗入場や、開会式の児童会スローガン発表での帯西レンジャー登場などで、「4つの心」を意識付けた。運動会後は、「4つの心」でどの心が伸びたのか、図14のように各学級で振り返りを行った。



【図14 振り返りシート】

イ 音楽会・音楽集会

音楽会では、個人でめあてを決め、「4つの心」に沿って振り返りを行った。6年生は「6年生全体で協力し、準備して教え合うことができたので、『帯西グリーン』の心が伸びたのと、私は今まで以上に音楽会に向けて努力できたので、『帯西レッド』の心が伸びた。」等の感想を書いている。

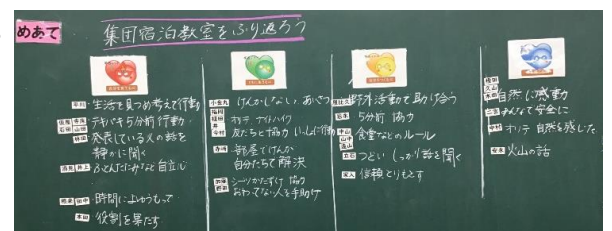


【図15 個人めあて】

音楽集会では、各学年が音楽の授業で学習したことを発表した。感想交流では、3年生が「帯西レッドの心が伸びました。わけは歌やクイズをよく聴けたからです。」等、「4つの心」を基に発表していた。

ウ 集団宿泊教室

集団宿泊に向け、青少年交流の家のめあて「規律・協同・友愛・奉仕」と本校の「4つの心」をリンクさせ、学年のめあてを「協力」とし、図15のように個人のめあてを立てて取り組んだ。毎日の振り返りの中



【図16 クラス全体での振り返り】

で一人一人がどのような場面でどんな心が伸びたかを記録した。活動後には、図16のようにクラス全体で伸びた心を確認し、今後の生活に生かしていくように方向付けた。

オ その他

委員会活動を中心に、多くの子供たちが朝からボランティア活動を行っている。正門周辺の清掃、花の水やりや花壇の草取り、落ち葉拾いなど、その時期に応じた活動を自ら考え行動する姿は、帯西ブルーの「命を感じる心」が育っていると感じる。低学年では、学級目標を達成するためどんなことをしたいかと子供に投げかけ、学級チャレンジとして自主的に声を掛け合い、自分たちで活動しその輪を広げ喜びを感じることで、帯西イエローの「社会をつくる心」が育まれている。

全学年で実施した学校保健委員会では、「心と体の健康」をテーマとし、保健・給食・体育の

3つの委員会が健康診断結果やスポーツテストの結果等を基にした帯西の課題と、その課題に対する取組の具体例を提示した。個人がめあてを立てる時間をとり、一週間の取組を行った。取組後には帯西レンジャーのどの心が伸びたのか、振り返りを行った。学校保健委員会において、給食委員会は本校の課題である「食事のマナー」について、①身なりを整える②正しい箸の持ち方を心がける③正しく牛乳パックを捨てるという3つのポイントに絞って発表した。給食王という給食マナーのスペシャリストを登場させることは、児童にとって親しみやすく、今までの給食の時間を振り返るよい時間となった。また、給食室前に豆つかみコーナー（図17）を設けることで、正しい箸の持ち方を心がけながら、楽しく豆つかみを行う姿も見られた。



5 研究の成果と課題

【表21 実践後の意識の変容 (R5 6月 N=471 1月 N=449 4件法)】

(1) 研究の成果

本研究が、子供たちの意識や行動にどのような変容を与えたのかを、質問紙を活用し6月と1月で調査・比較・分析をした。(令和5年度)

設問項目	6月	1月	有意確率
学校や学級で自分は役に立っている。	2.89 (0.85)	3.08 (0.85)	**p<0.01

カッコ内は標準偏差

①研究の【視点1】「4つの心」の設定・活用

道徳や特別活動を始め、様々な学習活動や行事、普段の生活の中で「4つの心」を基に実践をしてきた。2年目となり、「4つの心」が子供たちの生活とともにあり、日常的に「4つの心」で価値付けることが定着してきた。表21のように、「学校や学級で自分は役に立っている」という設問項目で、有意確率が示すとおり、年度当初に比べ1月には明らかな伸びを示した。その変容の理由を子供たちは表22のように答えている。

【表22 変容の理由】

「学校や学級で自分は役に立っている。」の伸びた理由

6年生になり、「学校を動かしたい」という思いで入った企画委員会で、イベントを企画したり、いきいき集会の企画メンバーとして場を盛り上げたりして頑張ったから。/生活委員会で「朝の挨拶運動」や、「廊下歩行5・7・5」などでみんなが取り組んでくれそうなことを実施したから。/朝からの緑化活動(水やり、雑草抜きなど)を通して学校を今まで以上に緑でいっぱいになろうと努力しているから。/1から5年生を楽しませたいという気持ちで頑張って、みんなの笑顔がみれたから。/委員会では、音楽集会の進行・出し物を「もっとみんなが楽しめるように…」と毎月レベルアップさせていったから。/ボランティア隊長としてみんなを引っ張ってボランティアができていくから。/自分なりの目標ができたから。/学級のために頑張りたいと思ったから。/学級会で何をやるかが楽しみになっていたから。

この設問項目は、自己有用感を調査する項目である。その数値が伸びたということは、子供自ら考え実践し主体的に活動する中で、自己有用感を高め、「誰かの役に立ちたい」という思いが、よりよい生活を創り出そうとする次の活動へと繋がっている、と分析する。

【表23 実践後の意識の変容

(R5 6月 N=471 1月 N=449 4件法)】

②研究の【視点2】「焦点化」「共有化」による授業改善

表23のように「友達の意見と自分の考えを比べながら、よりよい意見を考えている。」という設問項目で、確かな伸びを示した。その変容に理由を子供たちは表24のように答えている。

設問項目	6月	1月	有意確率
① 友達の意見と自分の考えを比べながら、よりよい意見を考えている。	2.89 (0.85)	3.08 (0.85)	**p<0.01

カッコ内は標準偏差

【表24 変容の理由】

「友達の意見と自分の考えを比べながら、よりよい意見を考えている。」の伸びた理由

友達の意見の良い所と悪い所、自分の意見の良い所と悪い所を、どちらの方が良い所が多いか見比べられるようになったから。/2学期から(学級目標に向けた)学級チャレンジを始め、グループの話し合いで比べ合うことを特に意識したと思うから。/友達の意見を加えてよりよい意見をつくり、それを発表して、間違えていたらまた友達の意見を聞いて…を繰り返していけば、よりよい意見に必ずたどり着けると思ったから。

により考えを生み出したり等、「よりよい生活を創り出す子供」に近づいていることが窺える。

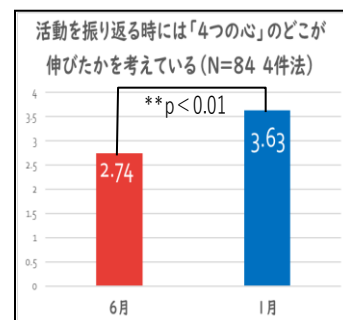
また、1月の職員アンケートで「授業改善ができた」と回答した職員は、4件法で平均が3.61ポイント、「あまりできなかった」という回答はなかった。その理由を表25のように答えている。

【表25 授業改善が推進できた理由】

理論（校長講話）と実践がリンクしているため、観てわかりやすく真似て実践することができたから。／校内研修で学んだことを授業や学級経営に生かすことができたから。／子供たちが学級会を大好きになった。学活の授業のときだけでなく、自分たちで考えて動くことが少しずつできるようになってきた。また、あらゆる場面でそう考えた理由を言えるようになり、各教科の学習にもつながっているように感じるから。／それぞれの取り組みが同じ視点から見ることができたから。／話し合い活動の流れや方法において、他教科の学習にも役立てることができたから。／他に先生方の授業から学ぶことが多く、小研で他のクラスがたくさん見れてよかったから。／道徳科では、進め方や話し合わせたいところ（見つける心）を見直し精選することができたこと、ピースの使い方などを学ぶことができたから。

③研究の【視点3】「4つの心」を生かした評価・環境設営

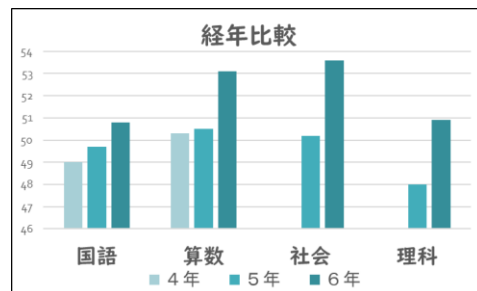
学級活動の検証授業をしたクラスでは、「活動を振り返る時には『4つの心』のどこが伸びたかを考えている」という設問項目で、伸びを示した（図18）。これは、全ての教育活動において「4つの心」を生かして評価及び価値付けをしてきたことで、子供たちにも「4つの心」が浸透してきたと考える。「できた」「できない」という価値だけにとらわれず、「チャレンジした」「協力できた」「粘り強く」「助け合う」「相手の考えを大切に」等、多面的な評価を自分にも友達にも向け、よりよい生活を創り出しながら伸びを実感していると感じる。



【図18 質問紙の結果】

④研究の波及

道徳や特別活動を中心に、課題を「焦点化」したものについて、教師あるいは児童の言葉で表現し、学級全員で比べ合いながら「共有化」を図ってきた。このことは、他教科へも波及しており、令和5年度の6年生の市学力調査を経年比較（図19）してみると、全教科において伸びていることが窺える。



【図19 市学力調査の経年比較】

学校教育目標の具現化のための取組が「わくわく」する学校創りにつながるとともに、子供たちの居場所へと結びついたことが、不登校の減少にもつながってきていると感じる。そのことは、30日以上欠席の子供が、令和4年度は36人だったが、令和5年度は半数以下の16人になってきていることから窺える。

(2) 研究の課題

委員会を中心にした活動のみならず、学級でも子供の主体的な活動をより充実させていきたい。そのためにも、学級の課題を日々の生活の中から見つける視点を持たせる研究を進めたい。また、道徳の授業の基本的な流れを教師間でさらに共有していきたい。

6 引用・参考文献

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1) 小学校学習指導要領解説 総則編 | 文部科学省 |
| 2) 小学校学習指導要領解説 道徳編 | 文部科学省 |
| 3) 小学校学習指導要領解説 特別活動編 | 文部科学省 |
| 4) KH Coder 2. X リファレンス・マニュアル | 樋口 耕一 立命館大学産業社会学部 |